

第6回工夫情報コンテスト 結果発表

福祉用具相談支援システムの工夫情報も参考に御覧ください。

ID:2126 スプーンを使って食べることはできているが、より食べやすくするためにスプーンに耐水・耐熱・耐久性のある滑り止めテープを活用



【事例概要】

頚椎性脊髄症により指先に力が入りづらい、しびれがある方に、食事の際のスプーンが滑って食べにくいと言われた。OTが研修会に参加し、ユニバーサルテープの存在を知ったため、試してみることを提案した。スプーンと手のあたる所に滑り止めを設置することで、スプーンを持ちかえることなくご飯を食べられるようになった。

ID:2144 薬包開封で困っている脳卒中上肢麻痺を呈した方に3Dプリンターで作成した薬包開封キットを提供した事例



【事例概要】

脳卒中上肢麻痺を呈した方が薬包開封のことで困っているため、3Dプリンターで作成した薬包開封キットを用いることを提案し、当事者が実践したところ、薬包開封ができるようになった。

ID:2172 肥満で左五十肩、右上腕骨近位端骨折を呈し、トイレ動作にて下衣を上げる際に臀部側が上らない方にサスペンダーを用いた事例



【事例概要】

肥満で左五十肩、右上腕骨近位端骨折を呈した患者様でトイレ動作の際に「ズボンのお尻側が上らない。」という相談があった。結帯動作は困難であったが、三角筋の筋力が残存していた事からあらかじめ下衣・パンツにサスペンダーを装着し、下衣を上げる際にサスペンダーを前方に引っ張る事で下衣を上げる事が出来た。

ID:2180 自家用車の助手席で座ることに困っていた脳卒中後遺症の方に、授乳クッションを改良した補助グッズを用い、安定して座れるように工夫した



【事例概要】

脳卒中後遺症で座位が不安定な人が、介助者の運転する車の助手席で移動するのに困っているため、授乳クッションを改良し座位補助グッズを作成することを提案し、実践した所、安定し座れるようになった。

ID:2181 記憶力の低下や情報整理の困難さのある方に予定を管理しやすく行動予定ボードを作成した。



【事例概要】

脳卒中後、記憶力の低下や情報整理の困難さから予定を立てることが難しかったり、日課を忘れていたりしていた方に予定を管理しやすいうにホワイトボードと磁石を利用し行動予定ボードを作成した。

ID:2182 さまざまな場所で立ち上がることに困っている筋萎縮性側索硬化症の方に対して、運搬できる軽い補高クッションを製作した事例



【事例概要】

筋萎縮性側索硬化症を有し上肢と下肢の筋力低下により、銀行や役場などのさまざまな場所で立ち上がることに困難を抱えている方がいた。立ち上がりやすくなるように、かつ、運搬しやすいことを意識した補高クッションを製作したことで、立ち上がりやすくなり、さまざまな場所へ行くことに対する障害を軽減することができた。

ID:2185 片麻痺により切り絵がしづらくなっている方に対して、可動式の紙の固定具を作成した。



【事例概要】

脳卒中後の重度左片麻痺を有している方が、片手で紙を持っていないことにより、切り絵に取り組むことが困難であった。そこで、片手で空間に紙を固定することができ、位置の微調整も容易な自助具を製作したことで、本人の負担がなくなり遂行することが可能となった。

ID:2186 頸髄損傷によりスプーンでスープを飲みづらくて困っている方に、レンゲを用いた自助具を製作した事例



【事例概要】

頸髄損傷により重度の上肢運動障害を有する方が、スープを美味しく飲めなくて困っていた。そこで、スープを掬うことに特化してレンゲを活用した自助具を製作することで、ご本人が美味しくスープを飲むことが可能となった。